

第1回 馬淵川大規模水害に備えた減災対策協議会議事概要

日時：5月9日（月） 13時30分～15時00分

場所：八戸市庁 別館2階B会議室

委員出席：八戸市長、青森地方気象台長（代理：防災管理官）、青森県危機管理局長、青森県県土整備部長、青森河川国道事務所長

報道機関：東奥日報八戸支局、デーリー東北

(1) 設立趣意書、規約及び傍聴規程について説明し、質問を受ける。⇒異議なし

(2) 水防災意識社会再構築ビジョンについて説明し、質問、意見を受ける。

○青森県県土整備部長

- ・住民目線とはどういう意味か。
- ・住民により主体性を求めるものなのか。それとも行政が住民に積極的に情報を提供していくということなのか。
- ・スマホを使ったということを前提して、高齢者に果たしてうまく伝わるのか。

●青森河川国道事務所

- ・関東鬼怒川豪雨を受けて課題となったものの3本柱の1つ。
- ・本来であれば、行政から避難行動にかかる、勧告・指示が出て避難等の行動にでるわけですが、今回は一部で間に合わず、遅れが発生し、住民の孤立化や避難中でも救助活動が発生してました。
- ・普段から住民自身が危機管理意識をもって情報収集するなり、避難行動を自主的に行動してもらうということで、すみやかな情報収集の手段が必要なことから、水位情報なり被害発生情報を情報収集できるようにするというところから設けたということです。
- ・高齢者の方についてはテレビからも川の水位とか流量の情報が入手出来るということもありますので、そちらからも情報を入手して頂ければと考えています。

○青森県危機管理局長

- ・設立趣意書（案）による、取組の三本柱の内2つのハード対策は資料4で整理済との印象を受けるが、本協議会での議論対象は「住民目線のソフト対策」のみということか

●青森河川国道事務所

- ・ハード対策は河川整備計画で今後5年間の取組が決まっており、資料で紹介したものです。そのハード対策を前提にソフト対策を議論しとりまとめます。

○八戸市長

- ・水防団や消防団の皆さんが防災情報を最初に入手できるよう頑張ってもらいたい。

(3) 現状の水害リスク情報や取り組み状況について説明し、質問を受ける。

○八戸市長

- ・想定浸水区域図を見ると左岸の方に浸水エリアが広がっているのはなぜか。

●青森河川国道事務所

- ・右岸の地域は土地が高いため浸水区域が少なく、左岸の方が広がっている。
- ・特に浅水川放水路あたりから下流が破堤しますと下流に被害が広がって被害が大きくなる傾向があります。
- ・先ほど説明しました浸水想定区域図は平成13年作成のもので、概ね100年に一度程度の降雨を対象に作成したのですが、現在想定しうる最大ということで計画を超えた規模に対応するはん濫シミュレーションを実施しておりまして、来年をめぐりに公表する予定となっております。

(4) 減災のための目標について説明し、質問を受ける。⇒異議なし

○青森地方気象台からの報告

- ・気象庁が平成29年度からということで、災害などの軽減のために取り組んでいることをご紹介します。
- ・平成28年度は試行期間ということで一般の方には提供しないが、関係者には提供していくつもりです。
- ・防災情報をわかりやすくということで、これまでは気象情報の中で警報が出そうな時には、防災情報は入れて出すことはなかったが、可能性があるのであればそのことにふれて見やすいように色分けしたり、バーチャートなどを使って一目で分かる情報にしていこうと考えています。
- ・メッシュ情報をもっと細かくし、浸水のリスクも分かるように提供していこうと考えています。
- ・特別警報も今までは大きなエリアで出していましたが、メッシュ情報を活用してより狭い範囲で市町村に対してのみピンポイントで発表することを考えています。

(5) 今後の進め方を説明し、質問を受ける。⇒異議なし

(6) その他

○青森県県土整備部長

- ・今回の協議会の対象としては、馬淵川では八戸市だけになっていますが、県民や地域住民から見ると直轄管理区間だとか、県管理区間だとかはほとんど区別がない。
- ・これまでのいきさつや目標年次というということもあると思うが、出来れば県管理区間沿川の市町村についても本協議会に参加できるように幹事会で検討して頂きたい。

●青森河川国道事務所

- ・幹事会で検討し、協議会へ諮っていききたいと思います。

○八戸市長

- ・大規模災害に備えた減災対策協議会を設立して頂き感謝いたします。
- ・昨年の鬼怒川の災害をリアルタイムで見て大変ショックを受けています。
- ・計画以上の大災害も必ず起きるものだという前提で検討を進めるということは非常に重要だと考えています。
- ・これから具体的な検討が進められるわけですけれども、協議会を立ち上げて頂いて感謝したいと思います。
- ・我々もアイデアを出しながら今後も確認進めていきたいと考えています。